

株式会社シンニッタン 中期経営計画 ＜2023.3期～2025.3期＞

2022年5月16日

証券コード：6319

<https://www.snt.co.jp>

1.中期経営計画策定の背景

<経営理念>

私たちは
常にあふれる情熱を持って
新しい価値を創造することにより
社会に貢献する

<環境認識と本中計の位置付け>

- ・ 21世紀は、地球や人類の「サステナビリティ（持続可能性）」が強く問われる時代
- ・ 日本は、人口減少が進む中、安全・安心な国のインフラの維持と生産性の向上が求められる時代
- ・ 会社は、社会課題解決への貢献が「パーパス（存在意義）」となる時代
- ・ 直近の外部環境（次ページ）は各種リスクが顕在化し、上記対応へのスピードアップが必要な状況
- ・ シンニッタングループにとって、本中計を「これからの時代に何をもって新しい価値を創造し、いかに経営理念を実現していくか」を深堀・探索する「第一ステップ期間」と位置付ける。

外部環境

<地政学リスクの顕在化>

- ・ロシアによる
ウクライナ侵攻
- ・米中覇権争い

<サプライチェーンリスクの顕在化>

- ・世界的半導体不足
- ・エネルギー価格の高騰

<パンデミックリスクの顕在化>

- ・新型コロナウイルス
感染症

<気候変動リスクの顕在化>

- ・異常気象の頻発
- ・災害の甚大化

リスクはチャンス!

カーボンニュートラル

乗用車をはじめとしたEV化

2020年

2021年

2022年

2023年

2024年

2025年

2.中期経営計画策定にあたっての基本的な考え方

<「新しい価値」を創造していきたい分野>

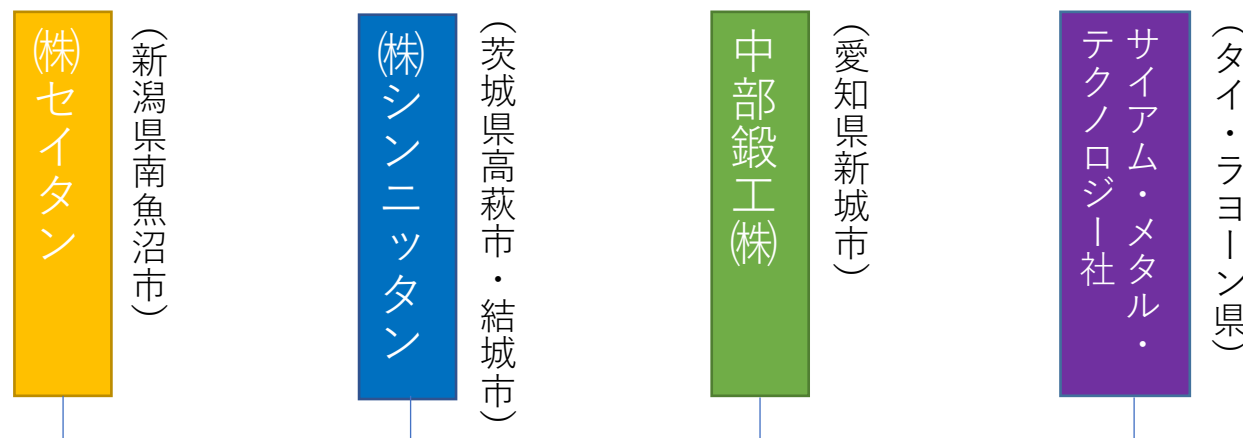
- (1) 「環境との共生」への貢献
 - ～E V、再生可能エネルギー分野等を支える部品の供給
 - ～生産工程での脱炭素目標の設定と達成（カーボンニュートラル）
 - ～塑性加工における省力化、省エネ化、省材料化技術の追求、新素材への挑戦
- (2) 「社会インフラ」整備への貢献
 - ～建設機械を支える部品の深堀
 - ～耐震化等を支える建築資材の供給
 - ～社会インフラの老朽化対策を支える仮設機材の供給
- (3) 「人口減少下における省人化ニーズ」や「物流インフラ」向上への貢献
 - ～工作機械、ロボット、フォークリフト、トラックを支える部品の深堀、各種パレットの提供

<グループ総合力の発揮>

- ・国内各社は、各々の強みに磨きをかけ、日本でのモノづくり文化を伝承し、地域の発展に貢献する。
- ・グループ最大の生産拠点であるタイ現法の優位性を更なる企業価値向上に繋げる。

3.シンニッタングループのタテ&ヨコ経営

【タテ】グループ事業会社（各社が自立的・自律的に成長・発展）



【ヨコ】グループ共通プラットフォーム

グループ横断機能	支える・共有する・学び合う
グループガバナンス機能	取締役会、グループトップミーティング
グループマネジメント機能	サステナビリティ推進委員会（カーボンニュートラル対応等） 連結財務戦略、HR戦略（人事交流等） DX推進、情報セキュリティ委員会
グループ研究開発機能	工場連携情報連絡会
グループモニタリング・内部統制機能	監査等委員会、グループ内部監査

➤グループ各社が、各々の強みを更に「鍛える」「極める」「研ぎ澄ます」

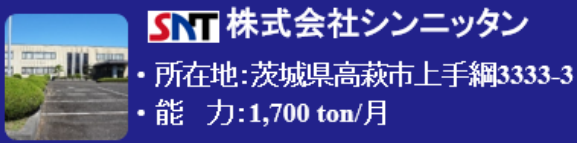
➤グループ横断機能が、グループ内の「チームワーク」「いいところ取り」「リスク早期警報」の触媒の役割を果たす

➤グループ各社の得意領域、ストライクゾーンの差異が

↓
レジリエンスの高さ
につながる

4-1. グループ会社の中計期間中の主な取組み

株式会社シンニッタン



創業以来、鉄（スチール）を共通言語として、様々なインフラを支えてきた

(1) 鍛造事業部

- ① 社会課題解決につながる以下の鍛造品に注力
 - 「物流インフラ」を支えるトラック、フォークリフト向け部品
 - 「社会インフラ」を支える、建設機械、産業用発電、建築資材向け部品
 - 「省人化工場」を支える、工作機械、ロボット向け部品
- ② (鍛造工程プラス) 機械加工の強化

(2) 建機事業部

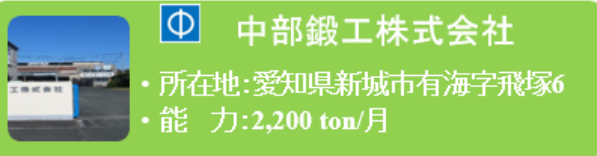
- ① (新築プラス) 改修や解体現場を支える仮設機材に注力
- ② 環境やトレンドに左右されない仮設機材を引続き強化
- ③ 鍛造力を活かした新製品の開発

(3) 物流事業部

- ① 人手不足の「物流インフラ」を支えるスチールパレットによる新規顧客開拓を推進
(トラックドライバー問題の解決や、自動倉庫への対応)
- ② 特殊設計の専用パレット、リターナブル汎用パレット、1WAYパレット等
顧客ニーズに応じた品揃えの強化

4-2. グループ会社の中計期間中の主な取り組み

中部鍛工株式会社



創業以来、建設機械を中心に、鍛造品で足回りを支えてきた

- (1) 基盤強化
 - ・履帯周りを中心に、建設機械分野に圧倒的強み
今後も同分野の顧客層や受注領域を深掘り
 - ・少数精鋭による労働生産性の高さ、安全教育等「現場力」の強さを更に向上
- (2) 技術承継
 - ・最も職人的要素の強い「ハンマー鍛造」の技術承継に注力
- (3) 顧客拡大
 - ・ロボット、免震、耐震等周辺分野の可能性を模索

4-3. グループ会社の中計期間中の主な取組み

株式会社セイタン



株式会社セイタン

- ・所在地:新潟県南魚沼市二日町684-1
- ・能力:2,000 ton/月

創業100年以上にわたり、自動車（乗用車）を中心に、鍛造品で足回りを支えてきた

- (1) 基盤強化
 - ・ 密閉鍛造による歩留向上
 - ・ 自動化、ロボット化による生産性向上
- (2) 事業変換
 - ・ EV化への対応強化（製造革新とアライアンス）
- (3) 顧客拡大
 - ・ 非自動車分野への対応強化
（ロボット、風力発電、農機、建設部材）

4-4.グループ会社の中計期間中の主な取組み サイアム メタル テクノロジー社



創業以来、トラック・ピックアップトラックを中心に、鍛造品で足回りを支えてきた

(1) 基盤強化

- ・グループ最大生産設備能力に対する更なる信頼性向上及びQCD（品質・費用・納期）レベルアップ
- ・現地従業員の現場管理力及び技能スキルアップ
- ・金型内製化率向上による収益力アップ

(2) 技術開発

- ・歩留向上、※ニアネット、※ネットシェープ化への限りない挑戦
 - ・品質レベルが劣位な割安材使用でも不具合ゼロを実現する工程プロセス開発
 - ・鍛造特性を生かした軽量高強度化への工法提案
- ⇒EV化への対応

(3) 顧客拡大

- ・鋳造 → 鍛造化提案の推進
- ・日系企業の現調化対応や、輸出拠点としてのタイの魅力の活用

※成形したあと、加工を必要とせず、完成品に仕上げることを、ネットシェイプ(Net shape)と呼び、完成品に近い状態に仕上げることを、ニアネットシェイプ(Near net shape)と呼びます。

5.中期経営計画の計数目標

(単位：百万円)

	実績	中期計画		
連結決算期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高	17,248	18,500	19,000	20,000
経常利益	688	800	950	1,200
(経常利益率)	4.0%	4.3%	5.0%	6.0%

< 配当政策 >

当社は、連結業績推移ならびに将来の業績見通し、事業計画に基づく投資余力・資金需要、内部留保の適正な水準などを総合的に勘案しつつ、配当金額を算出することを株主に対する利益還元の基本方針とし、**連結配当性向40%以上を目標**としています（但し、1株あたりの**配当金は10円を下限**）。本方針は、**2020年3月期より5年間を目途に継続中**で、中計終了時には必要に応じ見直しを行う予定です。